

平成22年度徳島県高校教育改革推進協議会報告

主な議事内容

○ 専門高校の活性化について

委員 農業教育の拠点校は、地理的条件を備えた学校とするべきであるとの意見があり、城西高校は県農業大学校に近く、充実した施設設備もあります。また、拠点校を中心としたネットワークを図ることによって、県下全体の農業教育のレベルも維持できます。

次に、農業、工業、商業の拠点校のネットワークを構築していきたいと考えています。お互いが交流することで、専門高校の活性化が図られます。

もう一点、産官学の連携を深めていくと同時に、産業界を巻き込んで進路に繋がる仕組み作りをしていただくと、県全体が専門教育を支えることになり、活性化に繋がっていくと思っております。

委員長 城西高校を拠点校とした県下の農業科系高校をネットワークで結ぶことにより、全体的なレベルアップを図るというお話を幹事会からもいただいております。

それから、産学官との連携については、その動きを強固にすると同時に、継続性を持たさなければならぬと考えております。

委員 普通科と農業科・工業科・商業科の高校が連携することにより、普通科の生徒への起業家を育てる体制作りや、高校間で将来についての意見交換などができると思います。

次に、商業科では、専門学校のような技能の習得が難しく、企業にとって即戦力となる生徒の育成が出来ないため、専攻科を設置して就職に対応してはどうかと考えております。

委員 文部科学省では、職業教育のネットワーク化という専門的な職業系人材の育成事業を予算要求しています。まさに、委員が言われたことが含まれており、専門高校のこれから担う役割の一面は、委員のおっしゃる通りだと思います。

次に、農工商の連携として将来的には、LED植物工場を工業高校で作成し、農業高校で実験し、商業高校で販売する専門高校のネットワーク化ができればと思っております。

○ キャリア教育について

委員 参考資料に就業体験の現状を載せていますが、普通科ではふれあい看護体験とか、実際は就業体験に当たるものが、含まれていない面もあります。

委員 就業体験は中学校の時に実施していますので、更に充実した職業選択に結びつくようなインターンシップ先を見つけることは難しいのではないかと思います。

委員 どの学校でも、進路課が中心となって職業紹介といったことも行われており、そのことも、普通科の就業体験実施率が低いことに繋がっていると思います。

また、本校では3年生を中心に本人の進路希望をある程度絞り込んだところで、実際にその企業の仕事を見るという密着したインターンシップを実施しております。

委員 本校普通科では、ほとんどの生徒が進学しますが、進学後どのような職業に就いていくかということ、高校の中で考えさせなければならないと思っております。ただ、生徒の学力向上、学習進度の確保が必要ですから、インターンシップは、長期の休みを使わないと難しいですね。

一方で、1年生を1日ある総合大学に連れて行って、いろいろな学部で学ばせることによって、将来のことも考えさせました。ある意味のキャリア教育だと思っております。

キャリア教育の必要性・有用性はどの学校でも考えているでしょうし、私の学校でも、いろいろと取り組んでいるところでございます。

委員長 発達段階に応じたキャリア教育はどうあるべきか、今、国の方でも、キャリア教育についていろいろな検討を行っているところですし、高校を卒業して、いわゆる高度な専門技術者といわれる専門職大学構想も聞いておりますので、これから大きく動いていく可能性のある部分だと思えます。普通科とか専門学科とか置かれている立場は違いますが、現場の先生方から実情を聞きながら、議論を進めていくことが、必要だと思えます。

委員 文部科学省によると、失業率が7%、非正規雇用率が30%、若年者無業者が60万人、新規卒業者の3年以内の離職率は、高卒5割、大卒4割と非常に深刻な状況にあります。徳島県としても、キャリア教育のあり方を考えていかなければならないと思えます。

そうはいっても、インターンシップを受け入れる企業も大変と思えます。しかも、夏休みなど日程が重なります。以前、京都市では企業データベースがあり、生徒が直接アクセスして円滑にインターンシップができていた時期がありました。できれば、同様な形でできるようになれば思ったりします。

また、インターンシップ先までの生徒の交通費など予算面での配慮をお願いできたらと思えます。

委員 小・中・高一貫した系統的なキャリア教育は、まだまだ、不十分なところがございまして、今後、考えていかなければならないと思っております。

予算面の話もありましたが、徳島発政策提言の中で、学校に駐在して、就職支援やキャリア教育の充実にあたる人材の確保が必要でないとか、インターンシップの受入先企業には人件費等の負担がかかりますので、指導助成金等を出していただけるように提言しているところでございます。

委員長 現在の就職状況が非常に厳しい中で、せっかく就職しても、高校生の離職率が非常に高い状況です。これは、ミスマッチの問題があるのではないかと考えるのです。それを解消する手立てとして、経験を積んだ人達をそれぞれ学校の中に配置し就職支援をする必要があること、国の方からインターンシップの助成金を手当てして欲しいことを文部科学省の方に陳情しております。

副委員長 今度の緊急雇用を使って、就職支援員という形で各校に配置できる方向で文部科学省も動いています。今後、インターンシップの方向についても文部科学省は積極的な取り組みを進めていくという感触を持っております。

委員 普通科高校のインターンシップが少ないということについてですが、中学校での体験と高校での体験が同じことになっていることもあります。中学校でのレベル、高校でのレベルといったものを徳島県の中でまとめてくれると普通科高校も動きやすくなるんじゃないかと思います。
また、企業には、徳島県全体として依頼することだと思えます。

委員 実習を受け入れてくれている企業や病院なども、余裕がなく厳しいですね。もし、受け入れて事故があれば自らの責任になるということで、出来れば受け入れたくないという状態になっています。
そこで、教育委員会として、関係団体などに、インターンシップの必要性などをしっかり説明していただいて、各団体の幹部だけではなく、現場まで理解していただけるような啓発活動をお願いしたいと思っています。

委員長 系統的な流れなどをワーキンググループで考えてみたらどうかというご意見を頂きました。そのあたりを踏まえて検討させていただけたらと思っております。

○ オンリーワンハイスクール事業について

委員長 オンリーワンハイスクール事業につきましては、実際に特色を出しやすいのは、専門高校だということで、なかなか普通科高校が採用にならないことについて、ご意見もあったようですがどうでしょうか。

委員 本年度のオンリーワンハイスクール事業につきましては、地域貢献を主として、地域の活性化、学校と地域の相互の関係を強調したこともあり、専門高校が特徴を生かして計画をしていたということです。しかし、普通科高校が取り組める事業内容にということにつきましては、来年度の募集から検討していきたいと考えております。

委員長 今まで、地域から応援を頂くような取り組みが多かったのですが、その成果を地域の活性化にどのようにつなげていくかということで、どうしても専門高校の方が有利になったと思えます。
この事業は、普段の授業では出来ないような体験を子ども達に経験してもらおうという意図でやってきたことです。担当は大変だと思いますが、また、募集があると思えますので、色々と工夫をしていただいて、ぜひ、参加していただきたいと思えます。

○ 特別支援教育について

委員長 インクルーシブ教育の理念は実現の方向で動いているのですが、現実的な対応はどうかという所で調整が進められているという印象を持っております。そのあたりどうでしょうか。

委員 制度改革の会議の方向で動いていきますと、12兆円ぐらいかかると言われています。そこまで、実現できるのかどうか、なかなか難しいと思われまます。また、現実に特別支援教育を行っている支援学校のあり方についても関わって参ります。軽々に物事を動かすのではなく慎重な対応を望みます。

委員長 情報収集をして、機会がある度に、情報を流していかなければならないと思います。
本県の特別支援教育につきましては、美馬に特別支援学校を設置し、小松島の自立支援をめざした「みなと高等学園」も開設します。この成果を将来につなげていくことが大事だと思っています。

○ その他

委員 専門学科の活性化の所で話せば良かったのですが、現実的に商業科が非常に厳しい。なぜかという、商業教育が産業界が求める人材育成に切れ切れではないかと思うのです。ぜひ、教育委員会の方で、地元の産業界と商業教育をどうしていくのか検討して頂きたいと考えております。

もう少し具体的にいいますと、家庭的な事情とかで、意欲ある生徒が入学して一生懸命勉強をしても、それに見合うような就職がありません。そうすると、意欲ある生徒が商業科に入学してこないという悪循環を起こしています。ですから、卒業後の進路は非常に重要になってきます。

委員 県内の工業高校では現在就職内定率が90%以上です。しかし、農業、商業の校長先生に聞いてみますとそれよりは低いですね。工業では県内の製造業に大きな企業があります。しかし、それ以外の学科では、そういった大きな企業がないところにも、大変さがあると思います。

ですから、冒頭申しましたように、企業を巻き込んで、大きな流れの中で、生徒達の出口保証を確立し、県をあげて支援していただけるシステムを作りたいと思っています。

委員 どうかよろしくをお願いします。

委員長 能力があっても、さまざまな理由で高等教育機関に進学できない生徒達も多いということですね。そういう生徒達に進路を保証することに責任があると思います。商工会議所などに現状を訴えて、少しでも求人を増やしたいと思います。我々も努力したいと思います。

委員 製造業に就職する者については、企業の方から、製造業で働ける準備を今まで以上に学校ですて頂ければありがたいと言われております。専門学科同士の連携を確立し、工業高校のオープンスクールにきて勉強してもらうなど、スムーズに接続できる仕組み作りを一緒になってさせていただけたらと思います。

委員 キャリア教育については、幼・小・中・高の継続という視点で行っています。そういった積み重ねが出てくると、職業に対する意識が変わってくると思います。

それから、総合教育センターでは、特別支援についての講座を非常にたくさん開講しております。学校現場からの要求が多くあります。特別支援を要する生徒の対応ができる教員の拡大が、来年度に向けての大きなテーマと考えております。

委員 インターンシップでは、高校に多くの中学校から集まっていて、多くの体験をしているので、生徒達が選んで行かなければならないのかなと思います。それと、離職率がとても高いということで、ミスマッチと言うことが当然

考えられますが、やめた理由等、フォローアップしていくことは大切なことだと思いました。

委員 今、チャレンジメッセが開催されておりますが、専門高校がブースを出すことができ大変有意義だったのではないかと思います。普通科の生徒も会場へ実際に足を運んでいただいて産業界がどのようなことをしているのか見ていただきたいと思います。

委員 SSHの発表の場をチャレンジメッセに設けることは出来ないのでしょうか。SSHの発表の場を専門高校と一緒に考えていただければありがたいと思います。

委員 いただいたご意見をもとに、来年からの予算なり、あるいは、国への政策提言なり、少しでも生かしていきたいと思った次第です。

副委員長 お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。多くの意見を頂きましたが、キャリア教育については、小学校からの一貫したキャリア教育は徳島県としてどうあるべきか、何らかの形で、早速来年度から進めていくことが出来たらと思います。

全体として、県の財政状況厳しいところではありますが、高校生のため、明日を担う人材のため、我々は何をなすべきかを考え、頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いできたらと思います。

委員長 これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。